



5月えんだより

2017年 5月1日

社会福祉法人神戸YMCA福祉会
幼保連携型認定こども園
西宮YMCA保育園 園長：谷川 尚
 〒662-0977 西宮市神楽町5-23
 Tel. (0798) 35-5992 FAX (0798) 35-6002

2017年度年間聖句：

「あなたがたは神に愛されている子どもです」

エフェソの信徒への手紙5章1節

5月聖句：「わたしたちは見えるものではなく、

見えないものに目を注ぎます。」

(コリントの信徒への手紙 4章18節)

3月の寒さもあり、桜の咲き誇る様子をゆっくり愛でた4月でしたが、いつしか花を散らせた後、緑色の葉っぱを蓄えてこれから来る季節に備えている様子に、季節の様変わりを感じる時を迎えています。個人的には満開のころに見える、桜色のほんわかとした色合いより、新緑に染まる木々の安らぎと成長を感じる色合いのほうが、心落ち着くように感じます。

5月は暑すぎず寒すぎず、外に出て活動するのに最適な気候です。幼児は無論、小さいおともたちも積極的に園庭だけでなく散歩に出たりと、この心地よい気候を楽しむ時間を持ちます。公園や道中の木々の生長、道端に咲いている草花の様子、山々や川の色合い、町のおいの合間に風が運んでくる花や木々の香り、見るものだけでなく聞こえるもの、そして肌で感触や風合いを、豊かな感性を通して、子どもたちは多くのものをそれぞれに感じ得ています。この感性こそ、様々なものに気取られない子どもだから持ちうる大いなる力であると思います。

私たちは大人になるにつれ、たくさんの知識を得て、その中で自分の中に既成概念を作っていく、自分の価値観に合うものを受け入れ、それにそぐわないものを嫌っていくようになります。見えるものしか信じないし、見たものがすべてで物事を判断していくようになります。そうした中で、子どもに対峙するとき大人の価値観を押し付け、時には子どもの感性を否定してしまうようになります。

今、「非認知能力」や「社会情動的スキル」など、幼児期学童期の育ちや教育の在り方について注目が集まっています。子ども時代は大人から見れば「未熟な」時かもしれませんが、肥沃な土壌に例えるほうがより適切かもしれないと感じています。豊かな感性、見たものや思いにとらわれずに多くのものを感じ、取り込んでいける土壌を持っている子どもの時代の経験、感じたことが、その後の大きな育ちにつながっていくと信じています。子どもたちは感性を働かせる中で、見えるものだけでなく、見えないものにも心を動かしています。礼拝や祈りの時には神様のこと、自然の中に大いなるものを、そして友だちや保育者、おうちの方とのかかわりの中で心を感じ、自分の中に「ある」ものをさらに豊かに育てていきます。

子どもたちにとって、この豊かな感性の時に出会うこと、感じることは大きな宝物でしょう。その宝物は大人には見えないものかもしれません。しかし子どもに対峙する私たち大人は、見えるものだけでなく、見えないもの、子どもにしか感じ得ないものにも心を配り、かかわっていく必要があるでしょう。今、この時の子どもの時代は貴重なものであること、そして心を開いて、その子どもに「ある」力を信じてかかわれるように日々過ごしていきます。

月主題	感じる	
月のねがい	乳児（0.1.2歳児）	幼児（3.4.5歳児）
	<ul style="list-style-type: none"> 園の生活に慣れ、周囲の人や物に気づく 保育者と一緒に遊んだり、散歩に出かける 	<ul style="list-style-type: none"> 身近なものや人に関心を持ち、かかわる 自分のやりたい遊びをする ものや人と関わる中で、友達の思いや気持ちが異なる事に気づく